

【様式】 令和7年度 福井県立丸岡高等学校 学校関係者評価書

<p>(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。 ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。 ・その他</p>
<p>(意見を聞いた方) 坂井市総合政策部次長 兼 企画政策課長 長谷川正広 様 丸岡城天守を国宝にする市民の会理事長 瀬野 友伸 様 丸岡ロータリークラブ会長 川上 純幸 様 PTA会長 竹内 孝治 様</p>
<p>(意見欄)</p> <p>○教育課程・学習支援 ・「探究的な学び」は今後の社会において必須のスキルになると思うので今後も重点的に取り組んでほしい。 ・教職員・生徒・保護者すべてがそれぞれの成果を実感しているため、この探究に取り組む姿勢が定着し、十分な成果が得られていると予測できる。結果よりもプロセスを重んじながら、変わりゆく入試傾向にも対応してほしい。</p> <p>○生徒支援 ・評価項目に社会性や自主性が身についたかを問うとよいという一昨年度の課題からアンケート項目を変更した結果、「自己評価」の甘さが見られるためルールの定義を明確にし指導・支援をしていく必要がある。 ・来年度より自転車のヘルメット着用義務となるが、引き続き生徒の登下校においては、生徒の安全第一での指導を継続して頂きたい。</p> <p>○進路支援 ・今年度も一般選抜に加え、探究活動の成果を活かして学校推薦型選抜や総合型選抜で多くの生徒が国立大学をはじめとする大学に進学している。最後まで粘り強くチャレンジする姿勢は大変素晴らしかった。 ・生徒が自分の進路に向き合うために様々な活動を行っているが、特に有効性を欠いた「今みらい手帳」の見直しを検討し、自己管理能力の向上と自身を振り返るためのスキルを磨いて頂きたい。</p> <p>○保健管理 ・ノー残業デーの実施、定時退庁について、「十分できた」「ある程度できた」と答えた教職員が、3年前は80%を超えていたが昨年度は56%、今年度は64%と低迷している。会議資料の事前確認やAIの有効活用など会議運用の策定やノー会議デーの設定が必要と考える。 ・本校独自のポジティブ教育を発展させ、自己肯定感をさらに醸成する生徒育成に努めてほしい。</p> <p>○図書整備 ・学校図書館が果たす役割は大きい。生徒の「憩いの場」としても充実していく様子が見れてとても嬉しく感じる。図書館は知らないことに出会える場として機能し、気軽に読書を始めるきっかけづくり等があると良い。</p> <p>○広報活動、PTA・同窓会活動 ・広報活動の重要性はとて高まっている。ホームページやSNS、一斉メールや学級・学年・PTAだより、同窓会会報などの更新・発行頻度が適切かなどを吟味し、効果的な発信に努めてほしい。 ・校内だけではできないことをPTAとの連携で実現し、今年度のような「PTA活動サポートスタッフ」を募集するなど、イベントの役員や委員会の負担減に努めるようなシステムを構築して頂きたい。</p> <p>○全体(総括) ・探究的な学びの先駆けとして長年取り組んでいることやその成果を校外にもっと発信すべきである。 ・探究的な学びの中で、地域の方や議会に課題を提案するだけでなく、提案を実現し、一緒にまちをつくってもらいたい。行政はその提案を実現する支援ができればと考えている。 ・地域の未来を担う人材の育成に携わってくれていることに大変感謝している。丸岡高校は地域にとって大切な文化拠点であるので、プロセスを大切にしながら課題と向き合う生徒育成に今後も大変期待している。 ・取組内容もプランニングもしっかりと考えられており非常に感心した。多様性が問われる社会において、社会情勢にアンテナを伸ばしながらキャリア教育にも力を注ぎ、時代に即した人材育成に努めてほしい。</p>
<p>(学校関係者評価を踏まえた今後について) いただいたご意見やご指摘を真摯に受け止め、次年度の教育活動に反映し、各校務分掌で、さらなる学校づくりの質向上を図ります。地域との交流の機会をより多く設け、学校の魅力発信に努めるとともに、生徒の進路実現を目指して学力と探究活動の両面での支援を工夫します。 特別活動への積極的な参加や自ら健康を管理する態度の育成、安全や環境整備に対する意識の涵養、幅広い教養を身につけさせる読書活動推進を今後も継続し、いっそうの充実・発展に努めて参ります。 教材研究や自己研鑽に励むとともに、業務のオンライン化、デジタル化を推進し、働き方改革をより深く見直していくことに努めてまいります。 また地域や保護者の方とのさらなる連携を図り、主体的に活動できる丸岡高校生を育てる努力を重ね、地域との協働による持続可能な教育活動を目指し、地域から信頼を得る学校づくりをめざします。</p>